令和４年度京都府立大江高等学校　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（　実施段階　）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
知・情・意・体の調和のとれた発達を図り、時代の変化に主体的に対応できる、日本や地域社会の未来を担う人間を育成する。 １　確かな学力【知】 知識や技能の基礎基本の定着を図り、自ら学ぶ意欲と課題解決能力を育てる。 ２　豊かな心【情】 徳性を高め、豊かな感性や情操を培うとともに、ボランティア精神を養う。 ３　強い意志【意】 自らの進路や新しい社会を切り拓く強い意志とチャレンジ精神を養う。 ４　頑健な身体【体】 自他の生命を大切にし、健康でたくましく生きる体力を育む。	１　成果 ⑴　系統的・計画的な進路指導によって、14年連続となる就職内定率100%を達成した。 ⑵　閉科となった普通科（総合選択制）、ビジネス科学科のそれぞれにおいて、特色ある取組を最後まで推進した。 ⑶　地域創生科について、各系統が特色ある取組を進め、系統長会議等を活用して連携を図った。 ⑷　個々の生徒に応じた指導に丁寧に粘り強く組織的に取り組み、安心して過ごすことができる学校環境づくりを行った。特に、新型コロナウイルス感染症における感染拡大防止の取組については、適切に対応し、校内での感染拡大を防いだ。 ⑸　授業や部活動を通して、専門的な知識・技能を高める指導を行い、以下のとおり成果を収めた。 ・WILLER TRAINS㈱「乗車マナー啓発ポスターコンテスト」優秀賞 ・第68回全国高等学校ワープロ競技大会京都府予選団体準優勝、個人５位、８位、10位 ・Japan Student Jazz Festival 2021奨励賞 ・令和３年度京都府高等学校商業実務競技会団体競技準優勝、個人競技５位 ・令和３年度「税に関する高校生の作文」福知山地区租税教育推進協議会長賞 ・人間総合科学大学主催「第３回食のアイデアコンテスト」特別賞 ・令和３年度全総文・近総文推薦作品選考会全総文推薦 ２　課題 ⑴　令和４年度に完成年度を迎える「地域創生科」について、地域や関連機関との連携を深めるなど内容を充実させ、さらに魅力ある取組とする工夫・改善が必要である。 ⑵　新型コロナウイルス感染症拡大による教育活動が制限された結果、目標としていた成果が思うように得られなかった。 ⑶　生徒募集においては、志願者の増加が見られたものの、定員の充足には至っていない。ホームページの更新や地域創生科ニュース、報道機関による広報等を通して工夫を試みたが十分な成果を得ることができなかった。 ⑷　「生徒一人一台の学習用端末」の導入に向け、GIGAスクール構想に対応したICT機器に係る効果的な活用方法の研究や研修を積極的に推し進める必要がある。 ⑸　新学習指導要領や第２期京都府教育振興プランに対応した教育内容の充実及び評価方法の工夫・改善を行い、より質の高い学力の育成に向けて取り組まなくてはならない。	１　生徒理解や教育相談機能の充実を図り、特別支援教育の視点に立った生徒指導等を通して、自己有用感や自尊感情を育むとともに、バランスのとれた人権感覚の涵養に取り組む。 また、民法改正による成年年齢の引き下げ、及び、少年法改正の意義について理解を深めさせ、生徒の望ましい社会参画につなげる。 ２　完成年度を迎える新学科「地域創生科」の教育内容の研究を一層深めるとともに、地域と密着し、関係機関及び事業所との連携を一層推進した本校ならではの教育活動を実践する。 ３　キャリア教育を一層推進し、具体的な取組を通して、豊富な知識とより高い技能を身につけさせ、思考力・判断力・表現力等を育むとともに、学びに向かう力や人間性等の陶冶に努める。 また、自主性を重んじ、地域において社会貢献できる人材育成に努める。 ４　GIGAスクール構想の一端を担う「生徒一人一台の学習用端末」の導入により、個別最適な学びと生徒の主体的・協働的な学びを推進する。 ５　生徒の多様な学びの場として教育的意義が大きい部活動の活性化を図る。 ６　働き方改革を推進し、業務の効率化を図るとともに複雑化・多様化する課題に的確に対応できる組織づくりに取り組む。 ７　健康・安全教育、防災教育・環境教育を推進し、安心・安全な教育環境を構築する。また、喫緊の課題となっている新型コロナウイルスへの対応について、生徒及び教職員が高い意識を持ち、感染拡大の防止に取り組む。

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>重　点　目　標</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="2">評価</th><th>成　果　と　課　題</th></tr>
<tr><td>組織・運営</td><td>魅力ある学校づくりの推進と学びに向かう教職員集団の醸成</td><td>完成年度を迎える「地域創生科」の教育内容の研究を一層深めるとともに、地域と密着し、関係機関及び事業所等との連携を一層推進した教育活動を実践する。
〔学校経営計画における具体的方策の評価A及びBの割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>80%以上</td><td>70%以上</td><td>70%未満</td></tr></table></td><td colspan="2">A</td><td>各系統を中心に特色ある取組を進めることができた。多岐に渡る教育資源の活用を目指し、関係機関や事業所と連携しながら教育活動を展開した。より効果的な取組になるよう計画的な実践と点検が必要である。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教務部</td><td>授業力向上</td><td>学習用端末や電子黒板などのICT機器を活用して、授業方法や教材を工夫し、生徒の学力伸長を図る。
〔授業における生徒がICT機器を活用する講座の割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">１年次生に学習用端末を導入し、教科担当者が試行錯誤しながら活用した。１月時点で生徒がロイロノート等を活用している講座の割合は６２.５％であった。教科の特性や環境の問題はあるが、授業での実践や研修を通してさらなる活用を促進し、生徒の学力伸長を図りたい。
広報については、本年度から説明ツールを一新し、本校の魅力をより的確・効果的に発信することにより、分かりやすい説明を心掛けた。募集については依然として課題があるが、中学生や保護者からは一定の評価を得ることができた。</td></tr>
<tr><td>効果的な広報の推進による志願者増</td><td>学校説明会、オープンスクール、中学校訪問の機会を通して、本校の魅力を中学生、保護者へ積極的にＰＲし、志願者の増加を図る。
〔前期選抜における募集定員に対する志願者の割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>100%以上</td><td>70%以上</td><td>40%以上</td><td>40%未満</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事務部</td><td>生徒・教職員が安心・安全な学校生活を送れる環境づくり</td><td>短期経営目標に基づき、教育内容充実のために適切な予算の計画的効果的な執行を図る。
危険個所等に対する迅速かつ適切な施設管理を行う。
〔教科・分掌予算における年度当初要望に対する執行された件数の割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>95%以上</td><td>80%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>C</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">物価上昇、電気代高騰の影響が大きく、予算執行については慎重な判断を迫られた。結果、例年より執行時期が遅くなった。限られた予算ではあるが、地域創生科の完成年度であることも踏まえて、効果的で適切な執行を行った。
施設設備の改善等については、多数の要望がある。予算の関係上、すぐに全てを執行することは困難だが、次年度以降も計画的に工事を実施していく。
修学支援制度や預り金については、例年よりも提出率や納入率が高かった。今後も学年部と連携し、生徒や保護者等に不利益なことが起こらないよう、丁寧かつ迅速に事務を進めていく。</td></tr>
<tr><td>組織的な学校運営</td><td>生徒の修学援助通知等を徹底し申告漏れのないようにする。
学年や分掌と連携し、学校課題の解決に向けた校内運営に参画する。
財務・会計事務の適切な執行を行う。
〔申請者のうち、提出期限内に提出された割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>95%以上</td><td>80%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>重　点　目　標</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="2">評価</th><th>成　果　と　課　題</th></tr>
<tr><td rowspan="2">第１学年部</td><td>規律指導</td><td>挨拶・言葉遣い・振る舞いなど社会人として必要なマナーを身につけさせる。
挨拶　　：自ら積極的に挨拶できるよう指導する。授業始め、授業終わりの挨拶を徹底させる。
言葉遣い：教職員に対する言葉遣いを正しく指導する。特に、職員室での言葉遣いを丁寧に指導する。
振る舞い：授業に対する態度、教員の話を聴く姿勢を正す。
〔学校評価アンケートにおける「登下校の様子や町で見かける様子から、生徒のマナーは良いと思う」について肯定的な回答をした保護者等の割合〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>70%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="2">B</td><td>普段の授業等では概ね良好な様子であった。言葉遣いや身だしなみの面で不十分であった一部の生徒に対しては、粘り強く指導して改善することができた。今後も継続した指導が必要と思われる。
学校評価アンケートの該当項目の結果（保護者等）当てはまる15%、だいたい当てはまる65%で、肯定的な回答割合は80%となった。</td></tr>
<tr><td>学力の定着</td><td>さらなる学力の伸長を図り、他校生徒に対抗できる学力をつけ、競争に負けない生徒を育てる。
考査前の放課後を利用して、任意の学習会を開催し、中学校の勉強で挫折した生徒の基礎学力改善を図る。
〔学年部主催の学習会の回数〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>10回以上</td><td>８回以上</td><td>６回以上</td><td>６回未満</td></tr></table></td><td>B</td><td>定期考査前の学習会を毎回の定期考査ごとに複数回数実施し、参加生徒に学習の仕方を含め指導したことで、学力の向上が一定見られた。
また、放課後にセカンドラーニングを実施したことで、参加生徒のコミュニケーション能力のアップにつながったことが良かった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第２学年部</td><td>学力の定着・マナーアップ・研修旅行の成功</td><td>授業に主体的に参加させ、基礎基本の充実を図るとともに、時間厳守・あいさつ・掃除などがしっかりできるようにさせる。
〔研修旅行の満足度〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>75%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr></table></td><td>A</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">授業への参加状況には個人差があるが、少しずつ好転した。進路指導と関連付けて、より良いものにしていきたい。
掃除はしっかり頑張るが、遅刻が多いことや挨拶ができないことが課題である。
研修旅行の満足度は非常に高く、教育活動として一定の成果があった。
インターンシップは、参加できなかったり無断欠席したりした生徒がいたが、概ね良好であり、今後の進路実現につながるものとなった。アンケートでは「やや満足」以上が87.5% と高かった。</td></tr>
<tr><td>インターンシップの充実</td><td>インターンシップや系統別学習などを通して、地域への関心を高めさせるとともに、自らの特性についてしっかり把握させ、希望進路を決定させる。
〔インターンシップ及び地域創生科の取組の満足度〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>75%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>重　点　目　標</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="2">評価</th><th>成　果　と　課　題</th></tr>
<tr><td rowspan="2">第３学年部</td><td>希望進路の実現</td><td>進路指導部と連携しながら、個々の生徒に具体的な進路のスケジュールを把握させ、自らが主体的な活動を展開できるように指導を行う。
〔卒業時点での進路未決定者数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>０人</td><td>１～２人</td><td>3～4人</td><td>5人以上</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">授業や放課後等を活用した進学、就職に係る個別の面接練習等を自らが依頼し取り組むよう促し、実際に多くの生徒が主体的に取り組んだ。結果として全員が希望の進路を実現することができた。
進路決定後、一部生徒に身だしなみや時間が守れないなどルーズな面も見え隠れしたが、全体としては落ち着いた生活ができ、評定平均4.0の生徒も6名という結果であった。</td></tr>
<tr><td>学力の定着</td><td>各教科及び分掌と連携し、日々の学習活動の様子を常に把握し、進路実現と卒業に向けて丁寧な指導を行う。
〔学年末の評定平均が4.0以上の人数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>６人以上</td><td>４～５人</td><td>３人</td><td>２人以下</td></tr></table></td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健部</td><td>特別支援教育と教育相談機能の充実</td><td>ケース会議や特別支援教育コーディネーター会議を定期的に実施し、関係機関との連携を行いながら支援の充実に努める。
〔特別支援教育コーディネーター会議の実施回数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>週１回以上</td><td>月１回以上</td><td>学期に２回以上</td><td>学期に１回以上</td></tr></table></td><td>C</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">特別支援教育コーディネーター会議を行い、生徒の実態把握や支援のあり方について検討することができた。また、総合教育センターが取り組むプロジェクト研究の対象となった生徒について、特別支援学校と連携を図りながら支援の充実に努めることができた。研究での成果や課題を共有し、他の生徒への支援に活かしたい。
保健だよりやHR学習で実施した保健学習のまとめを配布し、健康安全に関する情報発信を行うことができた。感染症対策は定着しているものの、危機意識の低下を感じる。各自が感染予防の行動がとれるように、注意喚起を継続する必要がある。</td></tr>
<tr><td>感染防止対策と健康安全教育の充実</td><td>保健指導や保健だより等を通して、健康安全に関する情報発信を行う。また、日々の清掃活動や消毒、個々の感染予防対策を強化し、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に取り組む。
〔保健だよりの発行回数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>月２回以上</td><td>月１回以上</td><td>学期に２回以上</td><td>学期に1回以上</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
<tr><td rowspan="2">生徒指導部</td><td>社会人基礎力の習得</td><td>全ての教育活動を通して個に応じた身だしなみ指導を行う。挨拶、言葉遣いなど社会人として必要なマナーを身に付けさせる。外部講師を活用し、薬物乱用やネットトラブルなどの防止に努める。
〔外部講師等を活用した講習会実施回数と校外研修会への参加回数の合計〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>10回以上</td><td>７回以上</td><td>5回以上</td><td>４回以下</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">毎朝、多くの先生が通学指導等に取り組み、身だしなみ等に係る声掛けが実施できた。一定の落ち着きの中で学校生活が送れたが、あいさつや言葉遣い、身だしなみについては課題があり、今後も継続した指導が必要である。今年度も新型コロナウイルス感染症防止を徹底し、学校行事等について概ね予定通り実施できた。部活動の加入率は実数で、一昨年度は44%、昨年度は68%、今年度は80.5%と増加した。今後、さらに活動内容の充実を目指したい。特別指導件数が昨年度と比較すると９件（延べ15名）と増加した。今後は未然防止にも努めなければならない。</td></tr>
<tr><td>生徒の活力向上</td><td>生徒会との連携や広報により部活動加入率を向上させるとともに、その活性化を図る。従来の行事・取組を充実させる。
〔部活動加入率〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>60%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td><td>30%未満</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>重　点　目　標</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="2">評価</th><th>成　果　と　課　題</th></tr>
<tr><td rowspan="2">進路指導部</td><td rowspan="2">生徒の能力や適性、希望進路の理解及び進路実現を図るための体制の確立</td><td>将来について長期展望を持たせ、希望進路実現に向けて個に応じた指導を行う。
〔３年次生模試受験者の割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>70%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr></table></td><td>C</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">３年次生の模擬試験受験者は、進学希望者７名、就職希望者11名の計18名であり、受験者の割合は67%であった。今後も、模擬試験を受験することの重要性を生徒に理解させ、早期から継続して受験するよう働きかけていきたい。
進路行事については、どの学年においても計画的・組織的に実施できた。進路希望調査においては、１・２年次生の80%が希望進路を回答した。未定者には個に応じた指導を行うとともに、明確な希望進路を持っている生徒に対しては、希望進路実現に向けて組織的にサポートする体制を、今後もより一層整えていきたい。</td></tr>
<tr><td>計画的・組織的に進路行事を実施し、進路意識を向上させる。
〔１、２年次生の進路希望調査において、希望進路を明確にした生徒の割合（平均）〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>70%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr></table></td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="3">国語科</td><td>基礎的な国語力の向上</td><td>漢字・語彙・文法事項など、国語の基礎知識に関わる小テストを全学年で年間を通して定期的に行い、学力の定着を図る。また、漢字検定の合格率を向上させる。
〔漢字検定受検者の合格率〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>C</td><td rowspan="3">B</td><td rowspan="3">漢字検定について、年間で３回実施を予定していたが１学期中に１回のみの実施であった。生徒数が減少する中10人の募集規程を満たすことができず、実施そのものが困難な状況であった。今後は直前に講習等の機会をもつことで検定への興味を高め、受検者増に努めたい。
コンクールについては「ワタシの一行大賞」「古典の日朗読コンテスト」「高校生懸賞論文」「全国高校生川柳コンクール」「宣伝会議賞」「おーいお茶新俳句大賞」の６つに応募した。また、全学年を通じて実施ができた。次年度も引き続き教育効果が期待されるコンクールを模索し、積極的に応募をしながら入賞を目指したい。
公開授業の機会に際し、ICTを活用した新たな授業モデルを呈示できるよう、日頃から活用方法を研究するとともに研修会等に参加をした。他教科を牽引できるよう、効果的な活用方法を模索し広く共有できるよう今後も努めたい。</td></tr>
<tr><td>鑑賞・表現力の向上と読書指導の充実</td><td>全学年を通して表現活動を積極的に取り入れるとともに、校内での掲示や校外のコンクールなど他者の評価を受ける機会を設けることで、資質能力の向上を目指す。また、学校図書館司書と協力し読書に慣れ親しむ態度を育成する。
〔コンクール等に作品を応募した回数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>6回以上</td><td>４回以上</td><td>２回以上</td><td>１回以下</td></tr></table></td><td>A</td></tr>
<tr><td>スマートスクール化の推進</td><td>タブレットやスマートフォンなどのICT機器を活用し、より深い学びに向けた授業改善を行う。また、校内外を問わず研修会等に積極的に参加し、本校生徒の実態に応じた活用方法を模索する。
〔ICTを活用した公開授業の回数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>５回以上</td><td>４回</td><td>２回</td><td>１回以下</td></tr></table></td><td>A</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>重　点　目　標</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="2">評価</th><th>成　果　と　課　題</th></tr>
<tr><td rowspan="2">地歴・公民科</td><td>学校設定科目の充実</td><td>地域の文化や歴史について、関係機関と連携しながら多角的な視点で学習するとともに、地域が抱える諸課題の解決を目指す学習活動を展開し、主体的に社会参画を行える力を育成する。
〔授業アンケートにおける学校設定科目に対する評価平均（4段階）〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>3.7以上</td><td>3.3以上</td><td>3.0以上</td><td>3.0未満</td></tr></table></td><td>C</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">学校設定科目では、地域資源を題材にしたフィールドワークを実施することができ、生徒の地域理解を一層促す学習活動ができた。しかし、地域の人々や地域課題の解決に関係する機関などと交流するような活動が少なかった点は課題である。アンケートを実施した結果、4段階中3.2であった。
主権者教育は、教科の授業のみならずLHRも活用し、社会情勢を踏まえて実施することができた。また、公共マネジメント系統の授業でも主権者教育と関連させた内容に取り組むことができた。主権者教育を教材とした授業は合計で11回であった。</td></tr>
<tr><td>成年年齢引き下げに伴う主権者教育の充実</td><td>全学年において主権者教育と関連させた授業を関係機関と連携しながら実施し、積極的に教材開発を行う。
〔全学年における主権者教育と関連させた授業の実施回数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>14回以上</td><td>8回以上</td><td>5回以上</td><td>5回未満</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数学科</td><td>計算などの基礎学力の向上及び数学的な考え方を通した論理的思考力の習得</td><td>授業のユニバーサルデザイン化を図るとともに、体系的に分かりやすい授業を行う。また、数学が苦手な生徒に対しては補習を行い、得意な生徒に対しては進学講習等を行うことで、個に応じた教育の充実を図る。
〔定期考査における平均点60点以上の講座数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>7講座以上</td><td>5講座以上</td><td>3講座以上</td><td>2講座以下</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">1・2年次では、定期考査前に補習を実施し、一定の成果が見られたが、本当に必要な生徒が参加しない、参加しても集中できないなどの状況があった。定期テスト前だけでなく、日頃から数学を学習させる工夫が必要である。
進学講習はごく少人数での実施となった。参加生徒はとても頑張っているが、回数をこなすことができなかった。
ICT機器を1年の基礎講座では活発に活用し、一定の成果があった。他の講座でも必要に応じて活用したが、あまり効果が感じられなかった。ICT機器の活用方法についてより活発な意見交換や研修が必要である。</td></tr>
<tr><td>教員の指導力の向上及び自己研鑽による専門性の向上</td><td>教科会議で各クラスの状況を意見交換し、質の高い授業の維持に努める。また、ICTの活用や効果的な指導方法について意見を出し合い、授業力の向上を図る。
〔ICT機器の使用法についての研修会の回数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>10回以上</td><td>6回以上</td><td>3回以上</td><td>2回以下</td></tr></table></td><td>C</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>重　点　目　標</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="2">評価</th><th>成　果　と　課　題</th></tr>
<tr><td rowspan="2">理科</td><td>論理的思考力の向上</td><td>授業または定期考査において、思考・判断・表現を問う場面で生徒が自身の考えについて、理由を含めて記述できるようにする。
〔定期考査における論述問題の正答率が６割以上の生徒の割合〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>60%以上</td><td>40%以上</td><td>20%以上</td><td>20%未満</td></tr></table></td><td>C</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">授業の中で生徒が積極的に自身の考えを表現する機会は昨年度より増加させることができた。しかし、自分の考えをうまく表現できる生徒は少なく、今後も粘り強く指導していく必要がある。
実験に関しては、「科学と人間生活」において多く実施することができた。一方で「生物基礎」と「化学基礎」では実施回数が少なく課題が残った。１年次生の実験に関しては、観点別評価を意識しながら行うことができた。</td></tr>
<tr><td>理科に対する興味・関心の向上</td><td>実験・観察を積極的に行う。その際に、生徒に結果を予測させ、その結果が予測と比べてどうなっていたかを考えさせる機会を設ける。
〔授業における実験の実施回数〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>9回以上</td><td>6回以上</td><td>3回以上</td><td>3回以下</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
<tr><td rowspan="2">保健体育科</td><td>運動技能の向上及び体力の向上</td><td>自己の運動機能や体力の課題を見つけ体力の向上を図る能力を育成する。
〔スポーツテストにおける判定〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>A判定7名以上</td><td>A判定５～6名</td><td>C判定50%以上</td><td>D判定20%以上</td></tr></table></td><td>C</td><td rowspan="2">C</td><td rowspan="2">全年次に共通して柔軟性や持久力をはじめ、ほとんどの測定値が全国平均を下回っており、全生徒の約半数がC判定となった。感染症予防対策の影響だけではなく、個々の運動能力が低い生徒が多く、今後は持久走等の教材を通して心肺機能の向上を図りたい。
ICT 活用は「保健」では100%であるが、「体育」ではグラウンドや体育館に wi-fi が整備されておらずハード面で活用が困難な状態であった。今後はロイロノートを活用できる方策を考える必要がある。</td></tr>
<tr><td>ICT機器を活用した授業の実施</td><td>ICT機器を活用し、座学に限らず、視覚に訴え、よりわかりやすい授業を展開する。
〔保健・体育におけるICT機器を活用した講座の割合〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>100%</td><td>80%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
<tr><td rowspan="2">英語科</td><td>進路に向けた英語力の向上</td><td>日々の授業を大切にさせるとともに、ワークシートや単語テストに取り組ませ家庭学習の習慣を確立し、進学講習の充実を図る。
実用英語技能検定の受検を推進する。
〔実用英語技能検定試験受検数〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>５人以上</td><td>３～４人</td><td>１～２人</td><td>０人</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">全ての講座が少人数であるため、個々に配慮した指導が実施できた。毎時間自作のワークシートを活用し、単語テストや小テストも計画的に実施したが、課題提出や学習内容の定着に向けた家庭学習に課題が見られた。
実用英語検定の受験者は粘り強い働きかけにより、１回目が４名、２回目が１名、３回目が２名と昨年度より増加しており、更なる充実を図りたい。
パフォーマンステストの実施は単位数が少なく苦慮したが、評価の３観点の１つである「思考・判断・表現」を測る資料の１つとするため、学期に１回の実施を計画し、年間で３回実施することができた。</td></tr>
<tr><td>言語活動の活性化</td><td>ＡＥＴを効果的に活用し、コミュニケーション能力を育成する。授業中にパフォーマンステストを実施し、言語活動を推進する。
〔１講座あたりのパフォーマンステスト実施回数〕<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>３回以上</td><td>２回以上</td><td>１回以上</td><td>１回未満</td></tr></table></td><td>A</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>重　点　目　標</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="2">評価</th><th>成　果　と　課　題</th></tr>
<tr><td rowspan="2">家庭科</td><td>基礎的・基本的な知識と技術の習得</td><td>授業を通し、生活に必要な知識と技術を習得させ、家庭生活を充実向上させる能力と実践的な態度を育てる。
〔授業ワークシートやレポートに設けた振り返りにおいて、自らの課題や解決策・意見が記入できている生徒の割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>70%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">「家庭基礎」は、地域創生教育につながる学習内容になるような工夫をしながら進めた。
２･３年次生の選択科目については、他教科や他系統との連携を考えながら進めた。選択科目が多く、生徒の実態や意欲を探りながら学習内容を工夫し、さらに効果的に授業を進めていけるよう研究していく必要がある。
本年度も前期は新型コロナウイルス感染症拡大のため調理実習を計画どおりに行うことができなかったが、後期は予定していた実習をほぼ予定どおりに行うことができた。</td></tr>
<tr><td>生活の充実向上を図る能力と実践的な態度の育成</td><td>実習を通し、実践的・体験的な活動を行うことで「生きる力」を身につけ、課題を解決するために工夫し、自立的に生きる基礎を培う。
〔実習後に実施する健康や環境に配慮した食生活及び食文化も含めた自己の食生活についての計画・管理をレポートに記入できている生徒の割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>70%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>C</td></tr>
<tr><td>情報科</td><td>情報の科学的な理解及び情報活用実践力の育成</td><td>科学的な見方・考え方を働かせ、プログラミングなどの情報技術を活用して、問題の発見・解決を行う力を習得させる。また、選んだ情報を整理し、適切な情報を見極める能力、収集した情報から新しい情報を作り出し、それを発信・伝達できる能力を身につけさせる。
〔定期考査における正答率〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr></table></td><td colspan="2">B</td><td>情報Ⅰでは情報技術の活用や科学的な理解等、課題解決に向けた学習活動を展開した。2単位では、講義・実習のすべての内容を進めることは困難であった。
3年次の「データベース」「情報産業と社会」は、他教科との重複した内容、専門性に特化した内容が今後の課題である。定期テストと実習では、概ね80%以上の目標は達成できた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">農業科</td><td>農業の社会的な意義や役割の理解及び持続的かつ安定的な農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度の育成</td><td>環境に対応した花卉・野菜を栽培し、教材として４つの学校花壇を整備し、美しい環境を整備させる。
〔学校花壇整備の回数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>７回以上</td><td>５回以上</td><td>３回以上</td><td>３回未満</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="2">育苗した花苗は、夏花壇用1,000苗、春花壇用800苗を栽培し、社会福祉協議会をとおして地域の花壇や、校内の４つの花壇に植栽し、地域の美しい環境作りに貢献できた。種子の80%は自家採種を行い、持続可能な環境づくりに取り組めた。実習農場も小さいながらも計画通り整備ができ、60種類以上の野菜を栽培し、理論と実践を身につけさせることができた。
スマート農業への取組は、屋外水耕栽培（9月～）⇒室内野菜工場（11月～）⇒温湿度管理を行った。室内でも順調に野菜や花が成長することで、新たな探究活動ができる素地が完成した。</td></tr>
<tr><td>探究活動による地域創生教育の実践の推進</td><td>環境サイエンス系統の実習として、以下の５項目が進捗したかを、授業時数で評価する。①実験的な栽培農場20h　②鉢物栽培20h　③水耕栽培6h　④温湿度の管理をするスマート農業10h　⑤地域資源活用5h
〔上記授業の実施割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>40%以上</td><td>40%未満</td></tr></table></td><td>A</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>重　点　目　標</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="2">評価</th><th>成　果　と　課　題</th></tr>
<tr><td rowspan="2">商業科</td><td>探究活動による地域創生教育の実践</td><td>商業教育による探究活動を通して、課題解決ができる能力を養う。その過程として、調査や分析、検証を重ねることで思考力・判断力・表現力を育成する。
〔外部機関との連携回数〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>７回以上</td><td>５回以上</td><td>３回以上</td><td>３回未満</td></tr></table></td><td>A</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">地域の活性化につながる探究活動として、地域課題の発見や解決策の提案に取り組ませた。また、近隣地域の起業家を講師とした起業家教育や特産品加工所での販売実習、商品開発等、ビジネス教育を推進している。また、各種団体や企業と連携し、イベントの企画・運営に携わることで、思考力や判断力、主体的に取り組む態度の育成を図った。
福知山警察署と連携し、特殊詐欺防犯ムービーの制作に取り組んだ。また、グラフィックレコーディング等の新たな知識やスキルを習得させ、創造力や表現力の資質向上に努めた。</td></tr>
<tr><td>効果的な広報活動の推進</td><td>地域と連携し、制作した映像コンテンツやポスターなどによる広報活動を展開する。同時に、SNSを活用した配信方法を検証し、効果的な広報活動を実践する。
〔広報実習（グラフィックレコーディング）についての生徒アンケートにおける満足度〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
<tr><td rowspan="2">福祉科</td><td>社会福祉に関する基礎的・基本的な知識の習得</td><td>授業を通し、社会福祉の目的や理念を理解するとともに、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を習得し、福祉制度や各種サービスについて理解させる。
〔地域の福祉制度やサービスの課題に関心を持ち、その解決に向けて自分の意見や考えを具体的にワークシートにまとめられている生徒の割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>70%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>B</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">将来の進路を見通して、積極的に学習活動に取り組み、多くの生徒が定期テストでの高得点に結びつけることができた。
福祉系以外の進路希望者が意欲的に学習に取り組むことができず、基礎的・基本的な知識の習得ができていないことが課題である。
今年度も「介護職員初任者研修」の資格を希望する生徒はいなかった。</td></tr>
<tr><td>ボランティア活動への積極的な参加</td><td>地域社会の一員としての高い意識をもち、積極的にボランティア活動に参加する姿勢を培う。
〔ボランティア活動に参加している生徒の割合〕
<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>70%以上</td><td>50%以上</td><td>50%未満</td></tr></table></td><td>B</td></tr>
</table>

学校運営協議会による評価	募集定員に満たないものの志願者が増加した。地域創生科の取組が新聞やテレビを通じて知られるようになっている。引き続き地域との連携を深めた特色ある活動に取り組んでもらいたい。 生徒や保護者の学校に対する期待が高まっている。時代に合った教育活動を展開しながら、生徒の力を伸ばしてもらいたい。

次年度に向けた改善の方向性	地域創生科における教育活動について内容・成果を点検し、さらに魅力ある取組とする工夫・改善を進める。募集定員の充足に向け、ホームページの更新や地域創生科ニュース、報道機関による広報等を通した生徒募集を充実させる。GIGAスクール構想に対応したICT機器に係る効果的な活用方法の研究や研修を引き続き推進する。新学習指導要領や第２期京都府教育振興プラン、府立高校在り方ビジョンに対応したスクールミッションを策定し、その実現に向けて教育内容の充実及び評価方法の工夫・改善を行い、より質の高い学力の育成に向けて取り組む。